

カラーグラビア

はじめに（増補版）

まえがき（旧版）

序 章 宮崎県の地形と地質

1 宮崎県の地形	15
2 地質年代と地層をつくる岩石	15
3 宮崎県の地質	20

第1章 県北の大地

1 九州最古のサンゴ化石	25
--------------------	----

2 古生代末に絶滅したフズリナと四放サンゴ	28
3 県北の鍾乳洞	30
4 交差して延びる洞穴（舟の谷鍾乳洞）	32
5 削られた洞床（祐の滝鍾乳洞）	34
6 巨大なつらら石（太鼓岩鍾乳洞）	36
7 二重ループの洞穴（三合鍾乳洞）	38
8 珍しい鍾乳石（七折鍾乳洞）	40
9 大分県境の火山	43
10 縞模様のある溶岩	45
11 変わった形の水晶	47
12 高千穂峡をつくった阿蘇火碎流	49
13 高千穂峠のおう穴	53
14 繩文人の知恵（チャート）	56
15 マグマの熱で硬くなつた礫岩	58
16 マグマの塊（大崩山花崗岩）	60
17 鹿川の黒尊石	63
18 川原の小石は大地のかけら	65

第2章 県央の大地

20	19	北浦のビーチロック
		路面に現れた大きな同心円群

1	1	四角柱状の岩(日向岬)	73
2	2	日向のざざれ石	77
3	3	美郷町の枕状溶岩	78
4	4	川床の塊(ノジュール)	80
5	5	川南の小さなリーニング構造群	81
6	6	宮崎平野のバー코드テフラ	84
7	7	火山灰層中の水晶	88
8	8	台地上に生活した旧石器人と縄文人の知恵	90
9	9	火山灰層中の目玉石	93
10	10	都於郡のナウマンゾウ化石	94
11	11	隆起した宮崎平野	98
12	12	宮崎市内に残る砂丘と砂堤	103
13	13	古墳のよな砂礫の丘	117
14	14	縄文時代の野外料理	119
15	15	海の底だった宮崎平野	122
1	1	青島(波状岩と断層)	128
2	2	波状岩に現れた大型の生痕化石	130
3	3	砂岩層中の大きな塊	132
4	4	日南の海岸地形をつくった地層	135
5	5	大堂津の深海型生痕化石と堆積構造	142
6	6	都井岬の浅海型生痕化石	145
7	7	都城盆地の生い立ち	150
8	8	関之尾のおう穴群	155
9	9	霧島火山のテフラ	159
10	10	小林カルデラと加久藤カルデラ	162
11	11	新旧の火山が集合した霧島山	168

第3章

県南の大地

117	119	122	128	130	135	142	145	150	155	159	162
106	108	112	117	122	128	130	135	142	145	150	159

第4章 地震災害

1 地震の国に住むリスク	175
2 プレーント・海溝・トラフ・付加体	177
3 震源と震央、P波とS波、初期微動継続時間と震源距離	181
4 マグニチュードと震度	183
5 激しい揺れを体験した日向灘地震	188
6 短い間隔で発生する強い揺れの日向灘地震	191
7 地震は日向灘のどこで発生しているのだろう？	194
8 過去の津波被害に学び、日向灘の津波に備える	198
9 津波の速さ・高さ・波長	199
10 絵図・古地図・地形図・古文書から津波リスクを探す	203
11 津波から身を守る	208
12 地震の揺れに強い地盤と弱い地盤	213
13 活断層が動いた地震	215

第5章 噴火災害

1 古文書に記された有史以降江戸時代までの御鉢・新燃岳の大噴火	221
2 御鉢噴火のスコリア堆積層	223
3 明治以降の新燃岳の噴火	227
4 西風に流される軽石・スコリア・火山灰	230
5 新燃岳・御鉢の噴火警戒レベル	236
6 火山の恵み	240

資料 宮崎県内の国立公園・国定公園・県立自然公園
宮崎県内の国・県指定文化財(地形・地質関係)

引用文献・参考資料・引用図類・ウェブサイト

おわりに(増補版)

あとがき(旧版)



みやざき文庫 107

ここまでわかった宮崎の大地

〔増補新装版〕
大地の遺産と地震・噴火災害

2014年9月9日 初版印刷
2014年9月21日 初版発行

著者 青山 尚友
© Hisatomo Aoyama 2014

発行者 川口 敦己

発行所 鉱脈社
宮崎市田代町263番地 郵便番号880-8551
電話0985-25-1758

印 刷 製 本 有限公司 鉱脈社

印刷・製本には万全の注意をしておりますが、万一落丁・乱丁本がありましたら、お買い上げの書店もしくは出版社にてお取り替えいたします。(送料は小社負担)



[著者略歴]

青山 尚友 (あおやま ひさとも)

- 1947年 鹿児島県霧島市に生まれる。
1969年 鹿児島大学理学部地学科卒業。宮崎県立学校理科教諭として、都城ろう学校、高千穂高校、延岡高校に勤務。宮崎県埋蔵文化財センター、県総合博物館学芸課勤務後、県立学校校長で定年退職。共著に「宮崎県 地学のガイド」(コロナ社)、「日之影町史 二 資料編1 自然」(日之影町)。
2011年 「ここまでわかった宮崎の大地」(初版)は第21回宮日出版文化賞を受賞。

現住所 〒880-0955 宮崎市桜ヶ丘町9-20
TEL・FAX 0985-47-7950